

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020年3月27日
所属学部・ 研究科・学府	園芸学部
所属学科・専攻	緑地環境学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	University of Cincinnati							
留学先所属学部等	DAAP (Design, Architecture, Art, and Planning)							
留学期間	出発日	2019/8/19	入学日	2019/8/26	修了日	2020/4/30	帰国日	2020/3/19
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他( )					
	通学時間	5~15分、建物によって異なる					<input checked="" type="checkbox"/> On campus	
	通学方法	徒歩						
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	<input checked="" type="checkbox"/> ( 2 ) 人部屋	その他( ) 寝室、バスルームを共有し、全体は				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input checked="" type="checkbox"/> リビング	<input checked="" type="checkbox"/> その他( )	
食事	自炊	40 %	学食	40 %	外食	20 %	その他	( ) %
保険	海外旅行保険(名称)	東京海上日動(海外旅行保険)						
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄ シンシナティ(飛行機) ⇄ シンシナティ(学校提携)							

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	1,831,316 円						
出どころ							
自費	<input checked="" type="checkbox"/>	貯金	200,000 円	アルバイト	200,000 円	その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	791,316 円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	640,000 円	その他名称( )			円
その他		その他( )					円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	✓	現金	200,000 円		その他 ( )	円
留学中		海外送金		キャッシング	✓	その他 ( 三菱UFJ銀行のデビットカード )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	全額、クレジットカードで
住居にかかった費用	全額、アメリカの銀行口座振り込みで(他の方法では手数料かかる)
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			234,646	円
海外旅行保険			126,630	円
OSSMA			19,440	円
査証・在留許可証	USD	380	41,100	円
住居	USD	9,123	975,000	円
食費			150,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			7,500	円
その他大学に支払った経費	USD	252	27,000	円
光熱費			0(住居費に含まれる)	円
その他 ( 旅行費 )			250,000	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 Environmental Systems, Issues, and Policies	正規	3		有	無
2 Introduction to the Theory of Public Art	正規	3		有	無
3 Woody Ornamentals 1	正規	3		有	無
4 Woody Ornamentals 2	正規	3		有	無
5 Horticulture Science 1	正規	3		有	無
6 Beginning Modern Dance 1	正規	3		有	無
7 Biostatistics in Research	正規	3	✓	有	無
8 Sustainable Development: Global Responses	正規	3		有	無
9				有	無
10				有	無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

4年生から順番に授業登録期間がスタートし、恐らく留学生は1年生と同じ又は遅く登録期間がスタートした。学部、学科によっても登録開始時期は異なった。秋学期(8月~)分は、受入が許可されてからできるらしいが、授業登録に関するお知らせは特になかったため、私はアメリカ渡航後ルームメイトに聞いてから授業登録を行った。春学期(1月~)分は11月中旬に登録期間がスタートした。登録期間が始まる前に、授業内容を閲覧してショッピングカートに入れることができた。登録は全て千葉大学でいう学生ポータルのようなウェブサイトを通して行った。アプリから登録することもできた。授業が始まってから3週間は、授業の追加・取り消しができる。その期間を過ぎると、授業料の返金額が満額でなくなる。交換留学生には関係のない話だが、基本的に授業を途中で取り消す生徒はほとんど見られなかった。

## 3-2. 授業内容、方法に関して

私の所属する学部がクリエイティブよりということもあってか、教授が学生に対して一方的に講義する形の授業は一切なかった。教科書を使う授業は、私や知人が受講した中には一切なかった。現実世界で発生している問題を扱ったり、多くのゲストスピーカーを招いたり、ディスカッションを行ったり、キャンパス内や学校周辺に出て授業を行ったりと、様々な授業形式だった。購入した書物は、プロジェクトに役立つ参考書であったり、ターニングポイントという授業内でクイズ回答ができるツールであった。Biostatistics in Researchという授業は教授が学生に教えるタイプの授業であったが、実際に現場で使われている問題や手法を例に授業が進められ、課題として、現実にある問題に対して分析手法を設計するものが課されるなど、多様な授業内容だった。その授業の内容のみを教えるのではなく、様々な分野を視野に入れながら、(実際に様々な学部の学生が授業内にいたため、その学生から新たな考え方が提案されることはしばしばあった)現実問題について考えるという授業形式がほとんどであった。

### 3-3. 語学力について

渡航直後は、何を言っているのか分からない場面が多々あったり、自分が言っていることがうまく伝わらなかつたりと苦戦することが多かった。聞き直したり、言われた内容を繰り返し確認したりすることが最初は躊躇われたが、それでは必要な書類の記入も、申請も、授業の課題についても全く分からないままになってしまうため、ためらいを捨てて何度も聞き直すようにした。授業も、最初は聞いているだけでは理解できず、パワーポイントや教授の身振り手振りなど、視覚情報で補って、漏れがないように努力した。2~3週間ほど経つと、授業内で繰り返し使われる単語やフレーズに慣れて、喋っている内容が大体わかるようになった。プレゼンテーションは、日本語で行う時のように、大まかな内容の把握はするが原稿は作らないという方法では本番で英語が支離滅裂になってしまうため、原稿を用意して暗記して、プレゼンテーションを行っていた。日常会話は、ルームメイトのおかげで、早い段階で身につけることができた。

### 3-4. 図書館など学内施設について

学内施設は充実していた。大きく、設備も充実しているスポーツジムは学生であれば無料で使えた。学食もキャンパス内に4箇所あり、それぞれのコンセプトに合わせてメニューも異なっていたため、選択肢は多かった。学内にはスターバックスが3店舗、サブウェイなどのファストフード店が6店舗あり、学食以外の食事施設も豊富にあった。図書館は各学部棟に1つずつあり、それとは別に誰でも利用できる大きな図書館が2館あった。図書館内も非常に充実しており、macのデスクトップやスキャン、コピー機、などは1階にあり、ミーティング用の部屋や静かに勉強するエリアが設けられているなど、様々な学習環境も整っていた。各学部棟内にも、閉鎖的でない多様な学習スペースがあらゆるところにあり、勉強する場所には全く困らなかつた。サークルなどの活動は基本的にどこかの教室やホールで行うことが多かった。キャンパス内には大きなスタジアム、フィールド、テニスコートなどもあり、競技が行われない時は自由に使用ができた。キャンパス内とキャンパス周辺を運行するシャトルバスや、夜8時から早朝まで行うナイトライドというタクシーサービスがあり、ある程度の移動は車がなくても問題なかつた。

### 3-5. その他

学生1人1人に、授業選択から進路、キャリアアップまでをサポートしてくれるアドバイザーが1人ついていて、留学生の私にもアドバイザーがいた。授業によっては、指定された授業を事前を受講していないと受けられない授業があるが、園芸学部の授業に関してはその制限なく自由に受講できるようにサポートしてくれた。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

初めての共同生活に当初は不安があったが、ルームメイトが全員綺麗好きで、ルールを尊重するタイプだったので、快適に過ごすことができた。それぞれの持ち物を自分の物のように丁寧に扱う、冷蔵庫の中はきちんと整理して腐った物を入れて置かないなど、基本的なことに常に気をつけるようにした。自分が我慢すればいいという考え方だと爆発して最悪な結果になりかねないということで、自分の気持ちをきちんと伝えていくことはルームメイトで話し合い、そうしていくようにした。私の寮は寝室・シャワー・トイレを2人で共有し、部屋全体(リビングやキッチン)は4人で共有していた。私はいいルームメイトに恵まれたため特に問題はなかつたが、ルームメイトと馬が合わないと、大変かもしれない。寮ではなく、キャンパス周辺の家を借りた学生も多いが、ほとんどの留学生は寮に住んでいる人が多かった。寮は入居から1週間または2週間まで契約破棄して全額返金されるため、とりあえず寮を契約しておいて、アメリカに渡航してから一般の賃貸を探して寮の契約を破棄した人もいた。

#### 4-2. 食生活について

シンシナティ大学では、初めて寮生活をする学生(主に1年生だが、ここに留学生も含まれる)は必ずミールプランという学食食べ放題のプランを購入しなければならず、秋学期は私もミールプランを利用して学食でほとんどの食事を済ませていた。学食はキャンパス内に4箇所あり、全ての学食施設はビュッフェ形式で、自分の好きなものを選んで食べることができた。ピザやフライドポテトといったアメリカらしいものから、寿司やカレーなど馴染みのあるものもあった。最初の2週間ほどは慣れなかったが、食事に慣れると学食は便利だった。朝8時から、深夜まで営業する学食施設もあったため、いつでも食事をとることができた。ミールプランは、食べ放題のプランの他にも、学期間何回まで利用できるといったプランもあるのだが、強制的に食べ放題のプランに加入しなければならず、食べ放題のプランは1学期分20万円ほどするため、春学期分は、ミールプラン中止申請の書類を提出して、ミールプランを中止した。自室にキッチンがあるため、春学期は自炊していた。キャンパス近くに大きなスーパーがあるため、そこで買い出しをしていた。

#### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

自分の部屋にはWi-Fiが完備されていた。学校のキャンパス内もWi-Fiが完備されており、ほぼ全ての場所でWi-Fiが使えた。交換留学生として受け入れが許可されると、案内やパンフレットなどが同封された封筒がシンシナティ大学から届くが、その中に、ミントシムという格安シムカードの案内も同封されている。私はそのミントシムを利用した。電波が悪くて苦労することは全くなかった。普段の生活ではほとんどWi-Fiを使うため、友人と外出したり、旅行に行ったりした時に主にデータを使用していた。日本で使っていた携帯電話とは別に、アメリカで携帯電話を新たに購入したり、シムカードを購入したりしていた人もいた。

#### 4-4. 服装について

基本的に学生はスウェットやパーカーといったラフな格好にバックパックという出で立ちだった。おしゃれや化粧をしている学生もいたが、きちんとした格好をしなくてはいけないという雰囲気は一切なく、皆が好きな格好をしていた。朝8時から始まる授業では、寝巻きのまま授業を受ける学生もいたと聞いた。学校にはラフな格好で行き、友人との外出には着飾った格好で出かけるというオンとオフの切り替えが明確だった。

#### 4-5. 健康管理について

エアコンの設定温度が平均20℃のため、夏でも室内は寒かった。現地の人にとってはその温度設定でやっと涼しいと感じるらしく、ルームメイトも同様だった。家の中もそのぐらいだったため、厚めの布団を買ったり長袖を着たりして寝ていた。日本で一般的な取り付け式のエアコンではなく、ダクト式の空調であるため、個々に温度を調節することができないため衣服などで調節するしかなかった。当初はこれに慣れず、体調を崩して熱を出したこともあったが、1,2日で治った。薬は日本から多めに持参していたため、体調を崩して病院に行くことはなかった。

#### 4-6. 保険、OSSMAの利用について

保険には、ホルモンバランスの不調で大学内の病院に行って診察してもらい、処方された薬の代金を立て替えてもらった。(帰国後)OSSMAの利用は特になかった。

#### 4-7. 課外活動について

様々な国の多様性を学ぶ、日本とアメリカの交流、キリスト教、の3つのサークルに主に参加していた。それぞれ、隔週週1で集まり、ディスカッションをしたりゲームをしたりして友人の輪を広げられたと思う。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

課外活動で参加していたキリスト教の集まりでは、OBや地域住民の方も参加することがあり、その際にはその方の家に行き、ホームミーティングを行うこともあった。地域の日本人コミュニティに参加することもあった。日本人コミュニティは、他の日本人留學生が紹介してくれた。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

夏も冬もカバーできる衣服、厚手のダウンコート、電気毛布、風邪薬、胃薬、頭痛薬、スキンケア用品

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

生物の図録などの参考書

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

褒められると謙遜したり自虐的なことを言ったりしないため、お互い気持ちよく褒め合うことができた。基本的に個人で行動するため、友達と1日中一緒に行動する様子はほぼ見られなかった。シンシナティ大学では、学費に加えて授業ごとに授業料がかかるため、授業選択に関しての責任をしっかりと持っているように感じた。1回目の授業では、全ての授業で、なぜこの授業をとったのかを聞かれ、それぞれ理由は違えども、全ての学生がすらすらと理由を述べていた。卒業後どのような職業に就きたいのか、またはどのようなことをしたいのか、について考えを明確にしている学生が多く、普段の会話でも当たり前のように話し合っていた。メディアなどによって、欧米人は失礼であるとか、気を遣わないとか、そういった類のイメージが無意識に根底にあったのだが、そんなことは全くなく、お互いが気持ちよく過ごせるように気を遣うのは当たり前であったし、用事や参加したくない思いを互いに尊重している人が多かった。ありがとうという気持ちを伝えることがとても多かったように感じる。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

【コロンバス】2019年9月、11月、1月、3月(各3~4日間)、計1万円ほど←ルームメイトの実家  
 【ニューヨーク】2019年11月(4日間)、約7万円  
 【マイアミ】2019年12月(4日間)、約7万円  
 【アメリカ・サンフランシスコ&カナダ・トロント】2019年12月~2020年1月(2週間)、約10万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

現地で知り合った学生と、週2回ジムで運動をしていた。キャンパスが緑豊かで空間として素敵なため、キャンパス内を散歩したり、ランニングしたりした。友人の家に行ってカラオケ大会をしてストレス発散したこともあった。

## 5. その他

### 5-1. 留学先大学について

シンシナティ大学は、各授業のクオリティが高く、それは教授だけでなく学生も積極的に参加することが当たり前であるからこそクオリティが高くなっていると感じた。キャンパスは緑豊かで建築物もそれぞれユニークで、大きさも歩いて回れるくらいのちょうどいいサイズである。スーパーや飲食店、本屋など必要なお店はキャンパス近くにある程度あり、生活に不便は感じない。私が出会った人は、みな優しく親切で、失礼な人はいなかった。学校施設も充実していて、勉強するのも、遊ぶのも、満足にできると思う。そこまで都会ではないため、物足りないと思う人もいるとは思うが、シンプルな生活を送るにはいい環境だと思う。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

分からないことは、聞けば答えてくれるので、自分が理解できるまで何度でも聞く方がいいと思う。単位互換が必須でなければ、今まで受けたことのない授業を受けることはいい刺激をもらえるのでいいと思う。イベント情報を入手して、積極的に参加するといういろいろな人に出会えて、友人も作れるので、できる範囲で積極的に行動することをおすすめします。

### 5-3. 留学を終えて

授業の様子や、学生の大学で学ぶ姿勢といった学ぶ環境が非常に心地よかった。修士か博士かは今後の進路次第だが、アメリカの大学院に進学することを真剣に考えている。この派遣留学プログラムのおかげで、新たな進路について考えることができるようになったので、参加して本当によかったと思う。英語学習に関しては、確かに日本でもできるが、話せないと必要最低限のことができないという状況下にあるからこそ、下手でも頑張って話そうという意識が生まれて、英語学習をする上での根本的な意識改革ができたと感じる。自分の意見を伝えることはまだすんなりとできないこともあるが、それでも留学後の方が、自分の考えを伝える機会を増やせたと感じる。自分自身に自信が持てなかったが、留学期間を無事に終えられたことでも自信を持てるようになったし、現地で出会った人たちと関係を築く中で、自分に自信を持っていいんだと思えるようになったので、現地で出会えた人々に感謝を伝えたい。また、この留学を行うために支えてくださった方々にも心から感謝を伝えたいと思う。